

## 【事業Ⅱ】

### 「四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施」

- 1. 事業概要：**四国の国立5大学が相互に連携し、香川大学に大学連携e-Learning教育支援センター四国を設置するとともに、他の4大学にセンター分室を設置する。そのe-Learning基盤を活用して「四国地区における5国立大学連携構想」の中の大学教育を共同実施することによって、連携大学全体の教育の質の向上を図る。
- 2. 連携大学：**香川大学（基幹校）、徳島大学、鳴門教育大学、愛媛大学、高知大学

### 3. 事業内容

#### (1) 背景・必要性

我が国の地方国立大学は、教育研究機関として、地域に根ざし、世界に発信することが求められている。四国の5国立大学は、四国そしてそれを構成する4県に立地する大学として、四国地方の知的基盤を豊かにするとともに、地域社会に貢献できる人材を輩出することを重要な使命としている。

一方で、5大学は、学部構成、教員数とその専門分野、そして設備面から、大規模な国立大学と比べて十分な教育研究機能を果たせていない面がある。しかし、この点は、5大学が相互に連携し、それぞれの人材や得意とする教育・研究分野を共有・補完することで、教育の質の向上を図ることができると考えられる。そこで、教育プログラムの共同実施のための母体として、大学連携e-Learning教育支援センター四国（以下、センター四国）を設置する。

現在、四国の国立5大学と公私立3大学では、大学連携支援事業（平成20年～22年）で設立されたe-Knowledgeコンソーシアム四国（以下、eK4）があり、e-Learningによる単位互換制度の運用も開始している。

そこで、「四国地区における5国立大学連携構想」における連携事業のうち、eK4のe-Learning基盤を活用して大学教育を共同実施する。

#### (2) 実施計画

平成26年度から大学教育を共同実施する。そのため、平成24～25年度を準備期、平成26～27年度を稼働期、平成28～29年度を拡充期として、平成30年度より大学教育の共同実施を定常化させる。

##### 平成24～25年度：準備期

平成24～25年度の上半期は大学教育の共同実施に向けて、連携大学で共同実施のためのWGを設置して課題の検討を行う。この検討結果に基づき、大学教育等共同実施の運用方法を策定する。その後、各連携大学で、策定した運用方法の実施に必要な規程を整備する。また、連携大学間で必要な協定などを定める。

下半期について、10月にセンター四国を香川大学に設置し、活動を開始する。平成25年度はeK4のリソースを活用しながら平成26年度の大学教育の共同実施の基盤整備を進める。特にシステムに関しては、共同実施に必要なシステムのハード・ソフトの検討と試行をeK4と連携して実施して、平成26年1～3月で、e-Learningによる開講に向けてのシステム最終準備を完了する。

また、10月より先行して、平成26年度に使用するe-Learningコンテンツの準備を進める。センター四国の設立後は、平成26年度に使用するe-Learningコンテンツの準備・利用許諾処理、共同実施科目のシラバス作成、共通履修案内の作成をセンター四国主導で進める。

平成26～27年度：稼働期

平成25年度に準備したe-Learning基盤とコンテンツを利用して、e-Learningによる前期・後期の大学教育の共同実施を行う。各学期が終了するごとに、実施内容（コンテンツと授業運用）の点検・評価を行い、問題点や改良点を明らかにする。これを2年のPDCAサイクルで実施する。

授業運用に関しては、使用するe-Learningコンテンツの準備・利用許諾処理、共同実施科目のシラバス作成、共通履修案内の作成をセンター四国主導で進める。

平成28～29年度：拡充期

稼働期の大学教育の実施内容に基づき、問題点や改良点をクリアしたe-Learning基盤及び授業運用体制で、大学教育の共同実施を行う。システム、コンテンツ、授業運用はeK4を拡充・発展させた形で、センター四国が主体的にコントロールする。

平成29年度を大学教育の共同実施の完成期として、平成30年度以降はセンター四国を主体とする定常的な運用体制に移行する。

### (3) 効果

○大学の立場から

- ・ 非同期型e-Learningを活用することにより、各大学の状況（時間割など）に依存せず、教養教育及び専門教育を柔軟に共同実施できる。
- ・ 大学間連携により、個々の大学単独では開講できない科目やテーマを教育科目として新たに開設して提供できる。
- ・ 個々の大学で開講されている共通科目（数学、物理学、外国語など）を統合して共有補完でき、また、効率的な人事が可能となる。

○学生の立場から

- ・ 非同期型e-Learningによりいつでもどこでも何度でも受講できる。
- ・ 科目選択の幅が広がり、履修者の興味や学習ニーズにあった科目履修ができる。
- ・ e-Learningの学習活動の一つである遠隔議論などを通して、自大学だけでなく他大学の履修者との交流の場が提供される。

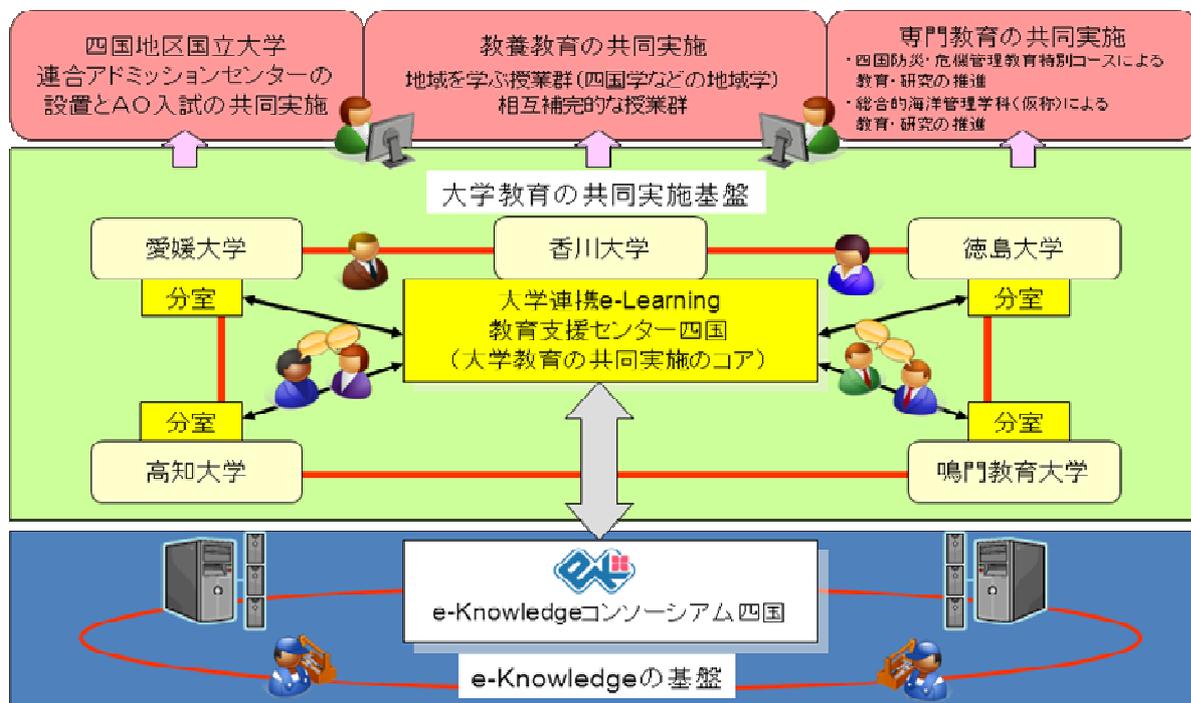
## 4. 事業経費：平成24年度～平成29年度

総額 10億8,708万4千円

（内 文部科学省補助金 8億8,422万4千円  
大学自己負担金 2億 286万円）

【概念図】

## 四国におけるe-Knowledgeを基盤とした 大学間連携による大学教育の共同実施



【問い合わせ先】

香川大学教育・学生支援室 修学支援グループリーダー 此枝 昇

TEL: 087-832-1150

FAX: 087-832-1155

E-mail: syugakukt@jim.ao.kagawa-u.ac.jp